

平成29年4月26日(水)

老球の細道322号

目指せ！ハードワーカー

会津バスケットボール協会 室井 富仁

近代スポーツの歴史をひもとくと、行きつく先は18世紀イギリスで行われていた闘犬、闘鶏、牛追いなどの「アニマルスポーツ」。動物同士を戦わせたり、人間と動物を戦わせたりする残酷で血なまぐさい娯楽や素手での拳闘である。そこでは「流血」が不可欠の要素であり、参加者が重傷を負ったり、死亡したりすることも珍しくなかった。それらは「ブラッディ（血なまぐさい）・スポーツ」と呼ばれた。

流血はいわば「命がけの戦い」であり、真剣勝負であることを示す証の一つとみなされていた。いかなる苦痛や死に直面しても、なお最善を尽くして戦い抜く「男らしさ、勇気、忍耐」を示していたが、動物愛護や人道的な立場、そして町の治安維持などから批判され、その後なくなった。しかし、そのハードワーク精神はフットボール、ボクシングやクリケットなどの近代スポーツに受け継がれ、1870年以降帝国主義風潮の高まりと共に、ついには筋骨たくましいスポーツマンが、理想的なジェントルマン像へとようになっていく。ちなみにフランスのクーベルタンは、1880年代のジェントルマンを養成する英国パブリックスクールでのスポーツ教育に感化されて近代オリンピック開催を思いついたという。

男子が「草食系」や「装飾系」などと言われて久しい。女子が強くなったのではなく男子が頼りなく、弱々しくなったと揶揄される。数年前NHK大河ドラマ『八重の桜』で有名になった「会津武士」の片鱗は会津のどこにも見られない。見られるのは「そうがし！」「んかよ！」とか言う「会津節」。文武両道も遠い昔の夢幻となってしまった。

イギリスのジェントルマン諜報員「007ジェームスボンド」、アメリカのタフガイ「ダーティーハリー」に負けない会津のバスケットボールハードワーカーの出現を期待する。数年前提唱した俺流ハードワーク「5ワーク」の実践を。もちろん現代は男女共通。

1・フットワーク

脚を使ってプレーする。どこへでも気軽に出かけ百聞は一見に如かず。

2・ハンドワーク

ファールぎりぎりでも手、腕を使ってプレーせよ。特にディフェンスやポジション取り。記憶に留める事より記録に留めよ。まめにメモをとり、ノートにまとめ考えを整理せよ。

3・ヘッドワーク

頭を使ったプレーを心掛けよ。頭を使ったプレーとは状況判断、目的意識を持つこと。

加齢とともに身体は老化する。頭脳は使えば使うほど華麗になっていく。特に進化し続けるポイントは創意工夫に頭を使い続けることである。

4・チームワーク

みんなで共通の目標を持って頑張らねばチーム力は向上しないし勝利は得られない。

違った個性の集まりが質の高いものを生む。反対意見に出会うことによって、さらに新たな発想が生まれレベルが向上する。一人での限界をチームが解決する。

5・ハローワーク

仕事は労働。ただひたすら汗水流しながら働くことが基本。ディフェンスも人生も要領を覚えたら、後はひたすら頑張るのみ。世に成功した人々は皆この類に例外なし。